

1 山梨県内公共図書館の概況 <令和2年度>

市川三郷町は4月に「市川三郷町子どもの読書活動推進計画」を、山中湖村は3月に「山中湖村子ども読書活動推進実施計画」を策定した。富士吉田市では10月にポスター「らしくない図書館をまじめにめざしています」を制作、YouTubeチャンネルを開設し各種事業を実施した。忍野村では10月に「読書の通帳」サービスを運用開始した。韮崎市では電子図書館サービスを12月25日から開始した。

県立図書館では11月に「第7回贈りたい本大賞」として、応募総数4,502点から大賞5点を決定し、表彰式を行った。表彰式後、ねじめ正一氏の講演会と金田一館長とのトークショーを開催した。また、2月には室井滋氏トークショー&シンポジウム「やっぱり本が好き～いま伝えたいことばの力～」を開催した。

9月、2021年11月に開催する第107回全国図書館大会山梨大会の準備委員会が発足し、オンラインで開催することを決定した。

その他の動きとして、6月には、閉校した小学校の校舎を活用したコワーキングスペース「八ヶ岳コモンズ」が、北杜市高根町にオープンした。NPO法人「地域資料デジタル化研究会」が運営し、大学教授や会社経営者らが集めた蔵書を保存する「名士の図書館」、地元清里の開拓や観光の歴史資料を集めた「八ヶ岳清里資料館」といった部屋を設けている。

12月には、元榊形町立図書館長の浅川玲子氏が図書館法施行70周年記念図書館関係者文部科学大臣表彰を受けた。

■新型コロナウイルス感染症の影響■

2020年2月下旬から各図書館でイベント等を中止する動きが見られ、3月に入ると複数の図書館で休館や臨時窓口の設置、予約資料の受け渡しのみ対応といったサービス制限が行われた。全国を対象とした緊急事態宣言を受け、4月下旬から5月中旬にかけては県下のほとんどの図書館が完全閉館となり、貸出や予約、相互貸借などを休止する館がある一方、電話やメールでのレファレンスは受け付けるなどの対応を取った館が見られた。また蔵書点検による休館を予定の時期より変更し、閉館期間中に実施する館もあった。

6月の宣言解除後は、入館者の制限（居住地・人数等）や来館の事前予約制、入館時の検温や手指消毒、カウンター等へのアクリル板の設置、返却資料の消毒、座席等の利用停止等の感染症対策を実施しながらサービスを再開した。以降は、それぞれの自治体や地域の状況に応じて、イベントの再開や利用対象の拡大、開館時間の延長等、徐々にサービス制限の緩和を進めている。検温用サーモグラフィーの設置、図書除菌機などを導入する館もあった。県立図書館では非接触型サービスとして7月1日から12月20日の期間、申込みから3か月の間、図書館利用カードの発行手続きをせずに電子書籍を利用できる「電子書籍トライアルサービス」を実施し、2月と3月にはセルフ返却機が導入された。毎年開催されている「山梨県図書館大会」が11月にオンラインで開催されたほか、研修会や会議等をオンラインで開催する動きが見られた。

令和2年度にかかる新型コロナウイルス感染症対応の動き

令和2年 2月28日 山梨県、県立施設の休館決定

4月16日 全国に緊急事態宣言発令

5月14日 山梨県を含む39県の緊急事態宣言解除

以降、山梨県は「新型コロナウイルス感染拡大防止への協力要請」を継続して発出